

犬の特発性慢性好酸球性肺炎の1例

相模が丘動物病院 呼吸器科

○城下幸仁

症例は、雑種犬、避妊済メス、1歳9カ月齢。5ヵ月前より咳漱が出現しステロイド投与中断にて再発を繰り返したので精査加療のため呼吸器科受診。体重 15.78kg。聴診にて **fine crackles** あり。フィラリア成虫陰性。末梢血好酸球数増加 (1397/mm³)、CRP 増加 (1.80mg/dl)、低酸素血症 (Pao₂ 58 mmHg)、胸部X線にて肺野に **peribronchial cuffing** などの間質性パターンがみられた。気管支鏡検査にて気管支内に黄白色の粘稠分泌物、BALF 好酸球増加 (44.2%)、気管支ブラッシングおよび TBLB でも多量の好酸球を検出したが、有意な起炎菌は検出されなかった。特異的原因を見出せず慢性特発性好酸球性肺炎と診断した。プレドニゾン 0.5mg/kg PO q48h にて良好に維持されたが、治療開始 20ヵ月目 (1.75年後) に 0.25mg/kg PO q48h に減量すると再発した。犬の慢性好酸球性肺炎について疫学、臨床所見、治療期間、再発頻度などについて獣医療の情報を提示し、人医の情報と比較する。